



鐔(裏)



鐔(表)

2 井上明祥《黒塗千段巻鞘打刀拵》一腰

明治十六年(一八八三)

鉄／高彫・色絵・象嵌

総長・一〇一・〇、鐔・八・〇×七・四

本拵の刀身は「守家」の銘がある鎌倉時代の備前鍛冶の作で、「とくよう」と呼び慣わされてきた。元龜二年(一五七〇)、徳川家康より上杉謙信へ贈られ、明治十四年(一八八一)、明治天皇の東北巡幸の際、上杉齊憲より献上された。

鐔に「明治十六年二月五日 井上明祥謹鐫」の銘が切られており、献上後に製作されたことがわかる。作者の井上明祥(一八三三〜一八九五)は京都・加茂神社の社家に生まれ、余技として刀装具を製作していた。明治二年に宮中の御用で菊御紋の太刀一腰と短刀二腰を調達したと伝えられている。

井上は幕末の名工として知られる後藤一乗(二七九〜一八七〇)の作風に似るとされている。本拵の鐔も水辺の秋草に蜻蛉や蛙が配された絵画的な図様を、地の部分より盛り上げる高肉表現で繊細に表わし、そこに金色絵や象嵌の手法により華やかさを加え、一乗の強い影響をうかがうことができる作である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections